

## ●アレルギー疾患

小児によくみられるアレルギー疾患は、アトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎及び結膜炎、花粉症、食物アレルギーです。

アレルギー疾患の発症には、遺伝による要因が大きく、さらに環境による要因が関係します。多くの場合、乳児期早期から乳児湿疹・アトピー性皮膚炎に始まり、食物アレルギー、気管支喘息、アレルギー性鼻炎・花粉症などを発症し、この現象は「アレルギーマーチ」と呼ばれます。

アトピー性皮膚炎とは、かゆみのある湿疹が、慢性的に良くなったり悪くなったりを繰り返す病気です。アトピー性皮膚炎では、皮膚の"バリア機能"（外界のさまざまな刺激、乾燥などから体の内部を保護する機能）が低下していることや皮膚に炎症があることが分かっています。外からアレルゲンなどの刺激が入りやすくなっており、これらが炎症を引き起こします。また、掻くことによりさらにバリア機能が低下するという悪循環に陥ってしまいます。

近年は、湿疹がありバリア機能が低下している皮膚から食物が入り込むことによって、食物アレルギーが発症するという仕組みがわかってきました。そのため、早い時期から適切な治療を行い、皮膚を良い状態に保つことが大切になります。

アトピー性皮膚炎の治療の基本は、①スキンケア ②薬物療法 ③悪化要因の対策の3つです。正しい治療を行うことで症状をコントロールして、湿疹などの症状が出ない状態を目指します。

気管支喘息とは空気の通り道である気道が発作的に狭くなることで、咳や呼吸が苦しくなる状態（喘息発作）を繰り返す病気です。気道の慢性的な炎症が特徴で、その結果、気道が過敏な状態となり、感染や運動などの影響があると、気道が狭くなり、喘息発作が起こります。

典型的な症状は、喘鳴（ゼーゼーという呼吸）のある咳や、息苦しさです。

小児の気管支喘息は、約90%にアレルギー体質があると言われていて、中でも特に多いのはダニアレルギーです。

気管支喘息の治療は、気管支喘息について理解し、そのうえでダニ・ハウスダスト対策など悪化因子の対策、薬物療法、体力づくりの3本柱で成り立っています。薬物療法としては、気道の炎症を抑えるための長期管理薬と、発作時に使用する発作治療薬があります。慢性的な気道炎症を抑えるには、症状がなくても長期的な治療を継続することが大切です。年齢や症状に応じてガイドラインに準じた治療を行い、発作がない状態を維持し、日常生活が制限なく行えることを目指します。

食物アレルギーは体を守るための免疫反応が本来体には無害の食物を異物と判断し、過剰に免疫反応が働くことによって引き起こされます。

食物に含まれるタンパク質がアレルギーの原因となり、原因食物で、1番多いのは鶏卵、次に牛乳、小麦の順になります。

食物アレルギーの症状としては、じんま疹や赤みなどの皮膚症状が1番多いですが、呼吸器症状、消化器症状、循環器症状、神経症状などさまざまな症状が出現し、ショック症状を呈することもあります。ひとつの臓器にとどまらず、複数の臓器に重い症状が現れる場合をアナフィラキシーと呼びます。アナフィラキシーに血圧低下や意識障害などのショック状態を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼び、生命にかかわる非常に危険な状態です。

食物アレルギーを診断するためには、食べたもの、症状が現れるまでの時間、現れた症状などを詳しく確認します。そのうえで血液検査等を行います。

そして、実際にどれくらいの量を食べると症状が出るのか、またはどれくらいの量であれば症状は出ないのかを確認するために、食物経口負荷試験を行います。当院では、1泊入院で食物経口負荷試験を行っています。

食物アレルギーの治療は、「正しい診断に基づいた必要最小限の食物の除去」が基本となります。症状が出現した際には、症状が進行することがあるので、速やかに治療を開始することが大切です。特にアナフィラキシーショックは命の危険がある状態で緊急な処置が必要です。